

ほほえみ

第48号(平成28年7月)
発行：小山市教育委員会



小山市「いじめゼロ子どもサミット」(4年目)を開催しました!

(平成28年5月31日 小山市立文化センター小ホールにて)

いじめゼロ子どもサミットは、平成25年度から実施しています。いじめのない笑顔あふれる学校にすることをめざし、市内各小・中学校の代表が参加していじめゼロに向けたよりよい取組について話し合いをしています。

今年度(4年目)は、**テーマ「いじめを見つけたとき、傍観者にならないために自分たちに何ができるか」**について話し合いました。事前に各小・中学校でテーマに沿って話し合い、持ち寄った意見を発表し合っ、自分の学校で取り組めるものを各学校に持ち帰りました。(各小・中学校代表、計51名参加)

《グループ活動の様子》



《各グループの発表》※一部を紹介します!

学級会で、「教室からなくしたい言葉」「教室にあふれさせたい言葉」について話し合い、言葉を意識するため、1年間教室に掲示する。

家族に、学校のことをたくさん話すようにする。

いじめだと思ったらそのままにせず、誰か(先生や親、友だち)に相談する。

周りの人と一緒に「やめなよ」と言う。一人で言うよりみんなで言った方がいじめていた人をやめさせることができると思うから。

いじめだと気付いていない人に気付かせて、助けることができる人を増やす。

「いじめ対策委員会」を組織して、(学校・学級)全員でいじめについて考える場をつくる。

助けるために勇気をもつ。味方がいることを伝える。

「いじめかな?」と思ったら、いじめられていた子に話を聞き、先生に報告する。「先生には自分の名前は出さないで。」と言う。

《参観者の感想より》

- 子どもは親の鏡。子どもたちに負けないような大人の教育が必要だと思った。
- いじめを見つけることは難しいと感じる。「それって、いじめ?」と気づく感性を育てたい。
- 子どもたちの素晴らしい取組をわたしたち大人はしっかりサポートしなければならない。自分たちの考え、他の意見や思いをしっかり聞いて考え、自分たちの学校へ伝えてほしい。

「小山市いじめ等防止市民会議」(4年目)を開催しました!

(平成28年6月20日 小山市立文化センター小ホールにて)

小山市いじめ等防止市民会議は、「いじめゼロ子どもサミット」を受けて平成25年度から実施しています。子どもたちのいじめをなくすために大人ができることについて話し合い、参加された各教育関係団体の代表の方を中心に取組を進めてきました。

今年度(4年目)は、宇都宮大学 准教授 佐々木英和先生に、「**相手を尊重するコミュニケーション**」について御講話をいただきました。二人組のワークショップでコミュニケーションを体験し、人権について考え今後の取組に活かしました。

《参加している皆さんの様子》

《佐々木先生の講話より》



いじめの事象の鍵はコミュニケーションです。話し合いが黙り合いや言い合いになっていませんか?(二人組で「聴き合い」のワークショップ実施)聴いてもらっていると思うから話せるのです。聴き合うことで大人同士の人間関係は変わり、子どもも変わってきます。「聴く」とは心の声を聴くということです・・・(二人組で「スターインタビュー」実施。二度と会えないスーパースターだと思ってインタビューする。スターの気分で質問に答える。)相手を尊重して聴く。尊重されたことがない子が相手を尊重できるはずがないのです。皆が愛おしく、かけがえのない存在なのです。

コミュニケーションはうまくいかないもの。伝えることと伝わることは違うのです。だから、いつも「和顔」が大切。誤解があってもマイナスには伝わらないから。

《参加者の発表より》

- 聴く力を身につけた方がいいと思う。携帯電話での会話は感情が伝わらない。誤解も生じる。
- 聴き合う関係をつくっていくことで、人間関係も良好になり広がっていくと思う。
- 親の立場や公の立場で、子どもと真剣に向き合うことが大切。地域の人とも笑顔(和顔)で迎え入れる気持ちで接していこう。

『第38回 人権講演会』のお知らせ

- 日時：平成28年8月23日(火) 12:30開場 13:30開演
- 場所：小山市立文化センター 大ホール ※入場は無料です。
- 演題：「今、私たちにできること～自分を見つめて、世界を見つめる～」
- 講師：紺野 美沙子 氏(俳優) ※手話通訳、要約筆記有り
- ※12:30よりロビーにてサミット・市民会議等のパネル展示や人権啓発活動等があります。
- ※12:50より国分寺特別支援学校・社会福祉法人パステルの皆さんの演技発表があります。
- ※座席は自由です。学校に事前申込みをされていても座席の確保はございません。
- ※駐車場の台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用ください。